さいたま市民レポート for Sustainable City

saitama shimin report No.45

発行日　2009年7月21日
編集責任　さいたま市議会議員　土井裕之

tel　048-886-2858　E-mail　doi@doih.net
fax　048-873-3446　HP　http://doih.net

FROM EDITOR

8月30日。日本政治にとって歴史的な選挙となります。政治は私たち国民が創るものです。今回私は積極的に政治の転換を推し進める立場に立ちたいと考えています。無所属の私ですが、「民主党」「高山さとし」を積極的に応援します。その理由については次号にお伝えします。
ところで、混乱が報道されたさいたま市議会の6月議会。市長選の余韻が露骨に現出。これまでもこれからも地に足をつけて活動していきます。

【 土井の所属委員会 】

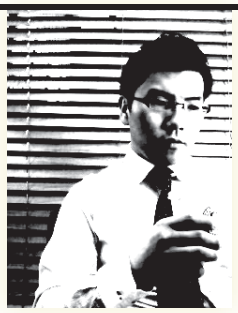
新しい所属委員会は以下の通り。

●議会運営委員会（理事）
･･･議会の運営に関わるテーマを審議する重要な委員会。会派を代表する理事に就任。

●市民生活常任委員会（委員長）
･･･市民局・環境局・消防局を所管する委員会で委員長に。

●決算特別委員会（9月議会中）
･･･H20年度の予算執行状況をチェックする重要な委員会。昨年は審議を経て「付帯決議」をつけた。

●見沼田圃将来ビジョン特別委員会
･･･県にゆだねてきた見沼田圃を市で検討する貴重な委員会。市民団体の方とも意見交換を積み重ね、この委員会を通じてより魅力的な見沼創りをめざす。



編集責任
さいたま市議会議員
土井裕之

所属会派　：民主党・無所属の会さいたま市議団
所属委員会：総合政策常任　予算常任
行財政改革特別委員会（副委員長）

profile:　1971年，旧浦和生まれ。川口北高校卒業。1999年より浦和市議を2年勤め、3市合併の際，辞職。2003年・2007年さいたま市議に当選。無所属で活動。

6月議会終了ー「多選自粛」「退職金半減」2条例の審議は継続

議会運営上、相川市長時代には起き得なかった異例な自体が続出した。

●審議日程の変更（「市長あいさつ」を繰り下げ）
●人事案件の委員会付託（→本会議で即決してきた）
●委員会においてほとんど審議しないまま、人事案件の閉会中継続審議の決定（→結局、最終日に賛成多数で議決）
以上は一例。

このような異例な自体も含めて、清水市長とは別の候補を応援した市議により、恣意的な議会での運営が行なわれたと認識している。

こうした事態に対し、私の所属する会派「民主党・無所属の会さいたま市議団」は、毅然とした態度を続けてきた。

私たちは、これまでの与党・野党という市長選での応援の有無による議会での位置づけを解消したいと考えている。二元代表制を重視し、新しい関係を築こうとしている。応援した清水市長とて、厳しくチェックしていく。そんな基本姿勢をたびたび確認している。

異例の運営の主導権を持っていた青羽議長に対し、「議長不信任」の動議を提出し、採決がとられた。賛成少数だったものの、当初の予想を上回り、数は賛否がやや拮抗した。

議長は、自ら一身上の都合により辞職。7月9日には、新しい議長が誕生した。

市長の公約の目玉であった
●多選自粛条例（3期まで）
●退職金半減条例
の2本は閉会中の継続審査に持ち越された。

波乱を引きずったまま、6月議会は最終日を迎えた。

市民生活委員会では委員長に就任ー「消費者行政」をテーマに

6月議会において、常任委員会の委員の入れ替えを行なった。ここで私は市民生活委員会に所属すると同時に、委員長に就任することとなった。この委員長の就任挨拶では、「新しいことに果敢に挑戦し、もっとも注目される委員会を目指す」と話した。一年を通じての調査研究活動に「消費者行政」を選定。さっそく7月中に市内視察を行なうこととなっている。

この委員会では
●生活環境条例改正
●盆栽美術館条例
の2件を審議。
盆栽美術館のあり方、経営や周辺の経済効果などが論点となったが、賛成多数で成立。

8月30日　衆議院選・投票予定
9月　2日　9月議会・開会予定